

日本の国政における政党政治に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 議案などの採決に当たり、各政党が所属議員に党としての賛否に従うことを強制する党議拘束は、議会制民主主義の精神に反するとして禁止されている。
2. 無党派層は1980年代と比べて増加しており、近年では4割を超えることもある。無党派層には、知識や関心は高いが支持政党を持たない者も含まれ、政治に対する関心が低い者ばかりではない。
3. 国費による政党への助成は行われておらず、また企業や圧力団体が政党に対して政治献金を行うことは一切禁止されていることから、政党は活動にかかる費用のほとんどを党員の納める党費で賄っている。
4. 近年、政党内に派閥が形成されるようになった。また、衆議院の選挙制度は一つの選挙区の定数が3～5人の中選挙区制が採用されているため、同じ政党でも異なった派閥から候補者を複数擁立することが増えた。
5. かつては自民党が衆議院で単独過半数を維持し続けていたが、2000年代以降はどの党も衆議院議員総選挙で過半数を獲得できず、第一党となった政党は連立を組まざるを得ない状況が続いている。

気体 A～C を実験室で発生させる場合、次のような方法がある。これらの気体の性質をア～エのうちからそれぞれ正しく選んでいるのはどれか。

気体 A：石灰石（炭酸カルシウム）に希塩酸を注ぎ、反応させる。

気体 B：二酸化マンガンに触媒として過酸化水素を分解する。

気体 C：亜鉛に希塩酸を注ぎ、反応させる。

- ア. 無色無臭で、空気より重い。水に少し溶けて、水溶液は酸性を示す。消火器などに利用される。
- イ. 無色で刺激臭を持つ。水によく溶け、水溶液は塩基性を示す。硝酸の原料などに利用される。
- ウ. 無色無臭で、水に溶けにくい。反応性が高く、多くの元素と酸化物をつくる。
- エ. 無色無臭で、同温同圧では全ての気体の中で最も密度が小さい。可燃性で爆発しやすい。ロケットや燃料電池の燃料などに利用される。

- |    | A | B | C |
|----|---|---|---|
| 1. | ア | ウ | エ |
| 2. | ア | エ | ウ |
| 3. | イ | ウ | ア |
| 4. | イ | エ | ア |
| 5. | ウ | イ | エ |

正答 1

ある試験を 50 人が受け、得点の高い順に 10 人が合格した。合格者の平均点は不合格者の平均点より 15 点高く、受験者全体の平均点が 50 点であるとき、この試験での合格者の平均点は何点であったか。

1. 61点
2. 62点
3. 63点
4. 64点
5. 65点

正答 2